

# 银杏坂タイム

◎ 仙台市子供相談支援センター

所長 大友 重明

仙台市青葉区錦町 1-3-9

TEL 022-214-8602 (相談支援係)

022-214-8848 (青少年指導係)

第 151 号 令和 4 年 11 月 11 日

## 子育てに生かす家族のコミュニケーションセミナー

10月18日、25日にセミナーが実施されました。講師を務めてくださった先生方から多くの視点や学びをもらいましたので、参加者の声とともに紹介させていただきます。（\*は参加者からのコメントの抜粋）

### □一日目 若島 孔文 先生

事例を交えながらのお話で、ケースによっては「傾聴が不安を増幅させることもあり、好きなことへの集中というアプローチをする」といいこと、問題があった際にそれをコントロールすることができたという学習や五感を通して学ぶことを大切にする、大人にとって望ましいという視点を外してみる、**「自律的でありたい・有能でありたい・他者と関わりたい」**という動機づけを大切にするなど元気になるシステムづくりを考えていきたいという話をいただきました。

\*今、本人ができていることに着目していきたい。

\*タイプ（ケース）別のアプローチの具体を教えてくださいました。

\*できた・やれた・楽しかったが増えるような生活をさせたい。

\*子どもにはすべてが勉強であるという言葉で、心に余裕が生まれた。



### □二日目 杉山 雅宏 先生

「学校の先生、支援者や保護者そして子どもたちに勇気と希望を提供する研究」をモットーにされる先生らしく、より良い関わり方について分かりやすい多くの言葉をいただきました。大人として「学校に行けないつらさ・理由について言語化できない」可能性がある子どもの心情を受け止め、また大人になって得た能力を当たり前のように子どもに適用して過度な要求をしない・子どものときに自分ではできていたのかと考えることを心に留め、**「家にいることをチャンスと捉えて、親子でつながること」「言葉＝贈り物という発想で本当の人とのつながりを大切にする」**を実践していきたいという話をいただきました。

\*目についたことだけに注目しない、大人として冷静に考えて言葉を発しようと思った。

\*子どもを褒めて、大人が動くという姿を大切にしたい。

\*杉山先生から元気をもたらした。大人が元気であることが大切。

\*心が軽くなった。家でも「ありがとう」を伝えたい。

\*大人が子どもを追い詰めている可能性があることに注意したい。



二日間で140名を越す参加者の皆さんと充実した時間を過ごすことができました。お二人の先生とも家族心理研究の第一人者であり、「子どもたちができていることを基盤」とし、「大人が望む方向性ではなく、元気になる方向性で」関わっていく大切さを伝えていただきました。次年度も同じような時期にセミナーを開催できればと考えていますので、ぜひ御参加ください。

# ふれあい広場の紹介

## □本体より

10月に入り、適応指導センター主催の進路相談会に参加しました。中学校3年生だけでなく、不登校などでお困りの保護者・本人の相談をお受けし、説明を通して、実際に見学に至るケースもありました。また、アーチルや各区の家庭健康課などの支援機関、学校から情報をもらってつながるケースもありますし、保護者がインターネットを検索して広場の見学・体験につながるケースも大変多くなってきました。見学・体験に来たみなさんが広場を見て驚いたり、よく話題にしたりする声をお伝えしたいと思います。



- ・古い建物かもしれないが、和室がいい。しかも楽器が充実していますね。
- ・人と関わるのにアナログなボードゲームやカードゲームが豊富ですね。
- ・卓球ができるとは思わなかった。
- ・人によっては自主学習をしているんですね。
- ・イラストが好きな方が多いんですね。
- ・静かな時間があっていいですね。

ふれあい広場は小学校高学年から概ね20歳までの方が利用可能です。本体では、10代後半の方が多いいものの、さまざまな年齢の通所者が満遍なくいます。同じ趣味の者同士で語らったり、年長者から高校の仕組みやエピソードを後輩が聞いたりするという異年齢交流が自然に生まれます。

また、学び直しをしたいという方のために学校選びや学習方法のアドバイス（就学支援）、仕事・アルバイトをしたい方のためにハローワーク同行・仕事検索や履歴書記入のサポートなど（就労支援）も行っていますので、電話で相談いただければと思います。

## □サテライトより

### ・イベント・行事

こんにちは。ふれあい広場サテライトです。サテライトでは、子供たちが主導となって体験型イベントを定期的に開催しています。先月は、本体の皆さんと一緒に泉ヶ岳に行ってカレー作りや工作活動などをしました。新しい体験や遊びを通じ、参加者一人一人にとっての学びに繋がるイベントになったかと思っています。また、毎月1回本体で行っているミュージッククラブ活動に参加しています。サテライト利用者も新しい発見があるようで、「携帯の世界から離れられて、なんか充実感があつた」という声もありました。今後も様々な種類のイベントを企画して、新たな「まなび」に出会い、人生の肥やしとなるような機会を設けていきたいと考えております。

### ・「あそび」のなかに「まなび」の種をまく

人と人が関わることで成長するという考え方を大切にしております。見出しにある「あそび」を楽しむというのは、気のままに過ごしたり、ゲームやおしゃべりをしたりをして楽しむことを示しています。拠点に実際足を運んで、他の利用者と楽しんで取り組む「あそび」のなかには、成長する機会が存在すると信じております。そういった成長機会を見逃さず、「まなび」を得られるようなきっかけ作りや、場づくりを大切にしてください。今年度も走り切ります！